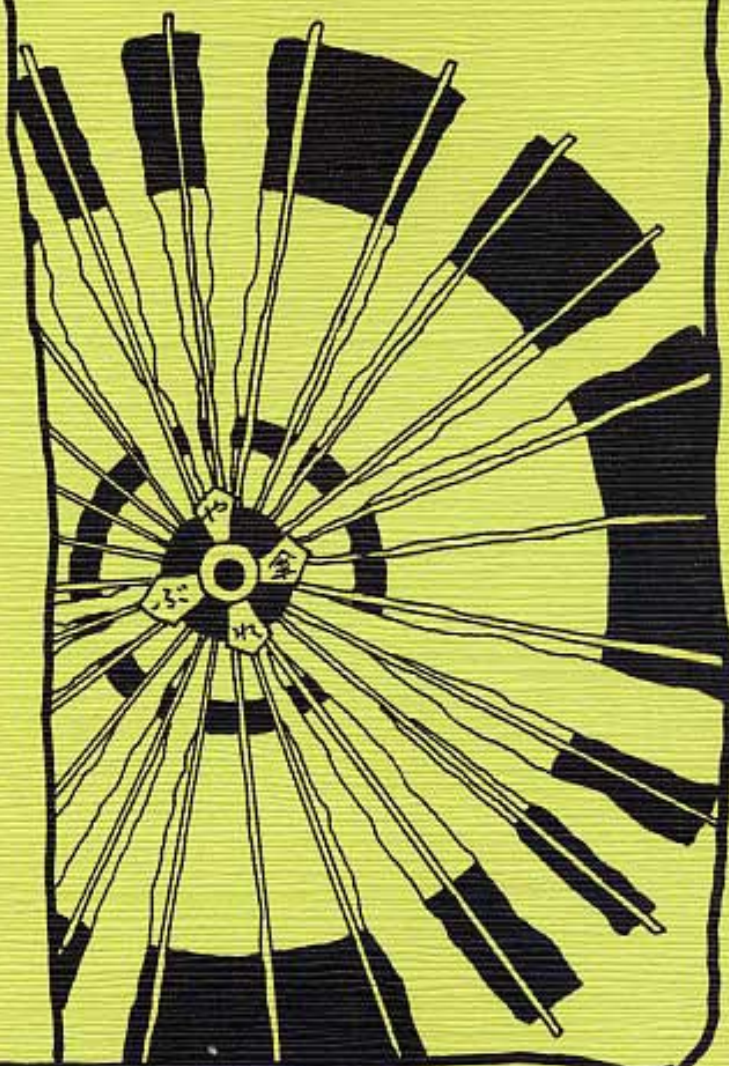


やぶれ傘



四十一号

二〇〇八年四月

薄氷や畦川板を渡すのみ	根橋宏次
侘助の落花のままの休診日	瀬島洒望
口閉ぢし蜆の重さ小石ほど	きぐちきみえ
黙するも沐することも春の陽に	安藤久美子
軒下の「鹽」看板寒の入	丑久保 勲
釣り人の餌を付け替へる日永かな	大島英昭
冬萌の河原を広くしてをりぬ	國保八江
あけぼのの風をひかりに猫柳	廣瀬雅男
呉竹の葉はそよぎつつ北風ゆるむ	藤井美晴
田の畦の土のゆるびや芹を摘む	白石正躬
独り立つなんてん桐や冬夕焼け	松村光典
冬日差机に椅子を収めけり	上林富子
悠然と鳶すべりゆく初御空	久世孝雄
裏木戸は南天の実の明るさに	忽那みさ子
婆抜きの一喜一憂初笑ひ	齋藤朋子

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

ベランダの鉢の並びに冬日かな	佐藤静子
春立つや患者同士のハイタッチ	眞田忠雄
広々と仕事納の机かな	篠崎善久
立春を頬の陽射しに感じけり	鈴木 孝
大の字に寝て街の子の雪遊び	高柳正幸
恙なく白鳥の来て湖暮るる	時田義勝
教会に触るるばかりや春の月	都丸スミ代
引越しの日どり決めたる春隣	平岡かづを
冬夕焼けガラスゆがみし旧校舎	松本善一
悴みし手もて鳴き龍起しけり	松本正生
うしごやで曲がる小道や花なづな	渡邊孝彦
立春や天蓋のなき貨車の列	秋葉貞子
赤き実の赤さ増したる今朝の雪	浅嶋 肇
冬木の芽通ひなれたる川伝ひ	池田よし子
梅一輪思はぬ方に昼の月	岩藤礼子

葉 缶

大崎紀夫

人日の新宿雨となりけり
救急車ゆきオリオンは中天に
笹竹に風の吹きやむ雪催ひ
大寒やかからす二三歩づつ歩み
大寒の水吐くホース魚市場

裸木の影のもやもや部屋に入る
川沿ひの小道の湿り日脚伸ぶ
葱畑枯れたるものは畝に伏し
立春の銅の薬缶のひかりかな
浅間嶺は霞がくれに風生忌
雪代や木地師の家の木地の椀
日の暮れの山かぜ里に椿落つ

冬 萌

國保八江

産土様に焚火跡ある三日かな
下枝の震へ小刻み初雀
冬萌の河原を広くしてをりぬ
大声で我名呼ばるる寒林に
行き合ひの挨拶交す息白し
悴める手に数珠かけて経を読む
手にふれて流るる手水春きざす
夫の撒く豆を拾ひてあるきけり
早春の庭に仏飯撒きにけり
仁王像の開く十指や春の塵

猫柳

廣瀬雅男

初詣裸電球辿りつつ
元旦の日差し満ちたる六畳間
笹鳴や背戸に陽のある昼下り
初護摩の太鼓打ち出す達磨寺
本堂の仏と並ぶ福だるま
ヒヤシンス芽を出す風の吹く中に
窓開き立春の風通しけり
ひとつひとつ影をひきたる露の臺
一息をつつく坂道のいぬふぐり
あけぼのの風をひかりに猫柳

北風ゆるむ

藤井美晴

川瀬 鳴る 方^{かた}へ 枯野を 歩く かな
呉竹の葉はそよぎつつ北風ゆるむ
枯れ芝を鳥影よぎる日和かな
初買ひの虚子居士の古書匂ひけり
蠟梅の空き地の夜を匂ふかな
淡雪に暮れサムソンとデリラ聴く
杉木立抜けて日の差す残り雪
鳥百羽浮きたるままに冴え返る
春時雨すぎてかがよふアスファルト
フアド聴くや窓より波止の春灯し

芹摘み

白石正躬

ものを煮る音のやまざる去年今年
七福神巡りの誘ひ春隣
バス停であめ玉をだす寒日和
千両のひと色のみを活けにけり
草の中それとなくある冬董
雨となり木の下影に残り雪
風つれて来てストオブを囲みけり
雑木山深きにこもる冬日かな
田の畦の土のゆるびや芹を摘む
干し物を吊したるまま余寒なほ

なんてん桐

松村光典

独り立つなんてん桐や冬夕焼け
冬もずの声のみ走る墓苑かな
妻妻入院見舞ふ久留里街道雪となり
月影と家路をたどる雨水かな
雪催ひ影なき道を医者へ行く
寒明けの庭に一輪黄の薔薇
きさらぎやきのふ脱ぎしをけふに着る
降りしきる雪眺めつつ稽吉あと
立春やきのふの雪に湯気のぼる
掃除機の掃除させらる春の昼

友一煮池悠家数
 の汁凝の然族へ
 子ののり面とみ
 は切をはとみ
 僧干ひ眠鳶な
 とにとりすし
 なるあひつゆの
 とりしきてく初
 や陽て冬朝の御
 梅の甘のの月空
 花味飯の月空

久世孝雄

銀赤寄江冬風雀
 ぶきせ戸日渡来
 ら実鍋のに差る
 をにふ向机三山
 し尾つく芭椅子
 て長ふつ蕉子
 白来今宵立像収
 魚をにぎ冬のけ
 の卵り大か雲り
 と旦に雲り

上林富子

忽那みさ子

山 茶 花 の 垣 根 の 続 く 寺 領 可 可 可
お 降 り の 伊 予 柑 山 を し め ら せ る
初 風 や フ エ リ ー ゆ る ゆ る 出 航 す
裏 木 戸 は 南 天 の 実 の 明 る さ に
二 ン 月 の 奥 の 明 る き 林 可 可 可
ぜ ん ざ い に 少 し 塩 足 す 雪 催 ひ
冬 落 暉 落 ち 切 る ま で を 二 人 し て

小池一司

老 猫 に く さ め も た ら す 余 寒 可 可 可
雪 融 け の 日 差 し の 中 の 福 寿 草
日 溜 り に 縮 こ ま り ゐ る 梅 の 花
春 う ら ら 遥 か に 淡 き 富 士 の 影
春 う ら ら 歸 り そ こ ね の 鴨 の 群 れ

◇5～6月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
5月	9日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	13日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	23日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	24日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	30日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・明月院他	丑久保 勲
	18日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM9:30	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男

(注) 5月の連休でうらら会・なごみ会・NHKは例月と異なります。

6月の楽天は会場の都合で9時30分からです。

セニョリータ: 今後も毎月原則第3土曜日とします。

6月15日(日)の吟行。集合は10時。JR横須賀線・北鎌倉駅改札口。

簡易改札口ではなく、線路を渡ってください。吟行地: 明月院・浄智寺。

句会場: 玉縄学習センター分室(大船駅の近く・昨年10月の処より近い)。

◎ 連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
大島英昭	☎ 048-592-5041	NHK文化センター	☎ 048-600-0091
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ
藤井美晴	☎ 0422-55-2733	クラブジャパン	☎ 03-3432-1500